

大阪府の事業紹介



太平立坑(大阪府東部流域)

写真中央の円形の穴は、大阪府が寝屋川流域下水道として建設を進めている太平立坑(内径23m、深さ32m)です。太平立坑へは、増補幹線が3本流入し、第二京阪道路下に整備中の寝屋川北部地下河川へと雨水を流出します。増補幹線の整備が完了すると、近隣4市の治水レベルの向上が図られます。

人と地球のうろおいマガジン・メール2010年4月号
発行 財団法人 大阪市下水道技術協会
〒541-0055 大阪市中央区船場中央2丁目2番5号-206
船場センタービル5号館2階
TEL 06-4963-2056
<http://www.osaka-sewerage-e-a.or.jp/>

Mer

Vol. 08

2010. April

人と地球のうろおいマガジン・メール

- 清流紀行…………… P02
「犬鳴山(泉佐野市)」
- ガイアの瞳…………… P04
「意外と知らないマンホール」
- 水人之交…………… P10
「渡船」大阪市
- 協会だより…………… P14

FREE
magazine

清流紀行

清流に映える四季の彩り
義犬伝説が伝わる霊場

犬鳴山(泉佐野市)



大木川に架かる「きんたか橋」

関西国際空港を望む海岸線からほど近い山間部。葛城山の西方に、美しい原生林と渓谷に恵まれ、古くから修験道の霊場として有名な名勝・犬鳴山があります。

山中には大小48の滝があり、特に両界の滝・塔の滝・弁天の滝・布引の滝・古津喜の滝・千手の滝・行者の滝が有名。不動谷一帯わたる古刹・七宝滝寺は、これら7つの滝を金銀などの七宝にちなんだことから命名されたそうです。ちなみに、犬鳴山は「大阪みどりの百選」にも選ばれるなど、その名前が一般的に広がっていますが、正確には犬鳴山という山はありません。「犬鳴山」とはこの地に伝わる義犬伝説に由来した、七宝滝寺の山号なのです。

渓谷美を創り出している水流は、不動谷を源流とする犬鳴川。春は水面に新緑が輝き、夏は水しぶきが涼となり、秋は紅葉が清流とともに流れます。四季が移ろう中で生み出される彩り鮮やかな情緒は、現在でも多くの行者が修行に励む霊場としての神聖な空気と混ざり合い、犬鳴山を神秘的な世界に仕立て上げています。

この地へ来る方の楽しみは、ハイキングや温泉などさまざま。特にハイキングはコースが設定しており、多くの方が訪れます。また、毎年4月



現在も多くの修験者が訪れる犬鳴山では、散策中に修行中の姿を見ることがも

にマス、7月には金魚の放流が行われ、親子連れをはじめ観光客で賑わうイベントもあります。他にも修験者の指導のもと、滝に打たれたり法螺貝を吹いたり日ごろ体験できない修行をすることもでき、女性の方も多く来るそうです。

犬鳴山の義犬伝説

紀州の猟師が鹿を追ってこの山域に来たとき、連れてきた犬が吠えたために鹿が逃げてしまいました。怒った猟師は犬の首をはねましたが、その首は猟師を襲おうとしていた大蛇に噛み付き、蛇とともに息絶えました。犬が吠えていたのは、猟師が大蛇に狙われていたことに気づいていたからなのです。愛犬に命を助けられた猟師は、その菩提を弔うために七宝滝寺で修行者となりました。この話を聞いた宇多天皇はいたく感動し、犬鳴山の山号を与えました



渓谷美に朱色が映える犬鳴山七宝滝寺の清滝堂



毎年、多くの観光客で賑わう金魚の放流(右)イベント



アクセス
南海本線「泉佐野駅」またはJR阪和線「日根野駅」下車
南海ウイングバスの犬鳴山行に乗り換え「犬鳴山」で下車

ガスの瞳

意外と知らないマンホール

日常生活の中で何気なく目にしているマンホールの蓋。下水道と地上を結ぶ直径60cmの「穴」には、水路の一部としての機能だけでなく、歴史・技術が詰まっていることは、あまり知られていません。今回は、まちの風景に溶け込んだマンホールについて迫ります。



大阪市の市章と照明の文字が書かれたマンホール



大阪市下水道マンホール



信号用とある大阪府警のマンホール



大阪ガスのマークが入ったマンホール

マンホールを見てみると

私たちの生活に欠かせない上下水道、電気、ガスは一体どのようにして届けられているのでしょうか。その答えは地下にあります。ライフラインと呼ばれるこれらの社会基盤は、道路の下に網の目のように張り巡らせており、マンホールはライフラインの維持・補修をするために造られた、地上から地下へ行く出入口なのです。

マンホールの蓋に注目しつつ道路を歩いてみると、意外とその数が多いことに気づきます。約60cmの大きな丸い鉄蓋のひとつひとつを確認すると、自治体の名前の他に「おすい」、「うすい」、「雨」といった文字が。これらは地上にいる私たちに、どのような情報を伝えているのでしょうか。

マンホールが教えてくれること

「汚水、雨水といった表示は、そのマンホールの役割を示しています。地上から見えませんが蓋の裏側には、蓋の製造年や材質、製造業者の社名等の情報も表示されているんですよ」と大阪市建設局下水道施設管理担当の大賀氏は話します。マンホールと一言でいっても、その種類はガスや電気、下水道などさまざま。蓋には、地下に何が

あるのかを教えてくれる大切な情報が書かれているのです。大阪市のマンホール蓋にはナンバーを付けています。マンホールナンバーを言えばどこに設置されている蓋かわかります。人の名前のようなものです。

「ちなみに、一般には知られていませんが、下水道マンホールの蓋はその向きで、下水道の流れを示しています」と大賀氏。例えば、大阪市の場合、マンホールの蓋に描かれている、市章「みおつくし」の方向に流れていく決まりになっているそうです。つまり、マンホールの蓋を辿っていけば、下水処理場に出ることになります。しかし「試みとしては面白いですが、大阪市の下水管は約5000キロメートルありますので大変ですよ。それにマンホールは車道上に設置されている箇所も多いので危険です。やっではいけません」とのことです。

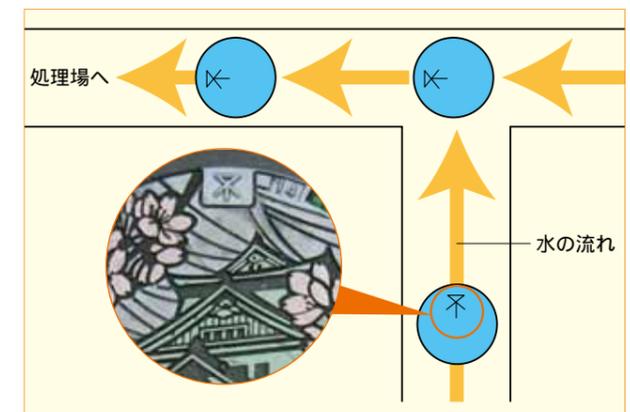
マンホールの蓋はなぜ丸い？

マンホールと聞くと、多くの方が円形の蓋を想像すると思います。実は円形であることにもさまざまな理由があります。

1つは落下防止。仮に四角形の蓋であれば、ずれたときにマンホールの中に落下する可能性があります。蓋が落下すると、内部の作業員だけでなく、歩行者や通行車両に危険が及ぶため、直径が一定で落下することのない円形が用いられているのです。また、同じ直径60cmでも円形の方が四角形よりも面積が小さく、蓋を軽くすることができ、構造的にも安定することなども理由として挙げられます。ちなみに四角形のマンホールもありますが、それらはガスや電気、通信によく使用されています。これらは中に収納される機器の形状が、四角形の方が便利などの理由で採用されています。

マンホールは道路の一部であるため、多くの人や車両が通過します。当然、蓋が外れる、割れるといったことがあってはいけません。マンホールの蓋が円形である理由に安全性がありましたが、それ以外にも安全に対す

る配慮がなされており、特に下水道用のものは全国的に統一された強度基準を満たした製品を使用しているのです。



進化するマンホールの蓋(強度・構造)

マンホールは人や車両が通行する道路に設置されるため、蓋には高い安全基準をクリアした製品が使われています。特に気候や地形の変化に富んでいる日本では、マンホールに求める条件が多く、これまでさまざまな取り組みが行われてきました。

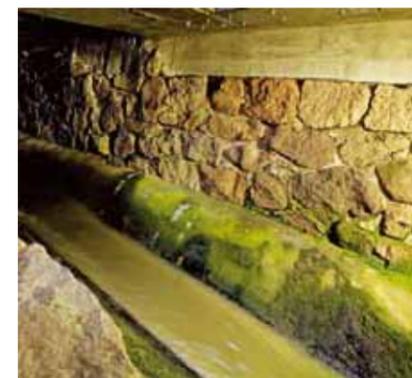
1960年代まで使用されてきたマンホールの蓋は、材質に普通鉄(ねずみ鉄)やコンクリートが使用されていました。これらは人の通程度程度の荷重には十分に耐えるものでしたが、車両の衝撃に対しては強度不足。やがて、車両の増加や大型化が進むと、より強度の高い材質が求められるようになりました。そんな折、登場したのが、水道管に使用され始めていたダクタイル鉄です。

ダクタイル鉄は普通鉄に比べて強度が高いため、割れにくく、さらに軽量化も可能という最適な材質でした。伸びが大きいために変形しやすいという性質はありましたが、蓋の裏側に梁構造の補強を入れて変形を抑えるリブ構造を開発。こうして現在では一般的となった、「ダクタイル=強靱な」マンホールの蓋が生まれました。

大阪の下水は日本最古!?

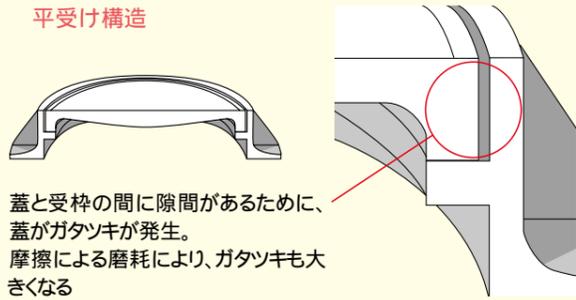
大阪には豊臣秀吉が大坂城を築城した際に、城の周囲に張り巡らせた日本最古の下水溝があります。秀吉が造った大阪のまちは、大坂城に向かう東西路を軸に基盤の目状に整理したもので、建物と建物が背中合わせになっているところを割るように下水溝を造りました。このことから「背割下水」と呼ばれ、また秀吉にちなんで「太閤下水」とも言われています。

大阪の下水は明治時代のコレラの流行が契機となって整備が進められましたが、秀吉の時代に造られた下水溝は、現在でも大阪市の下水道の一部として利用されています。

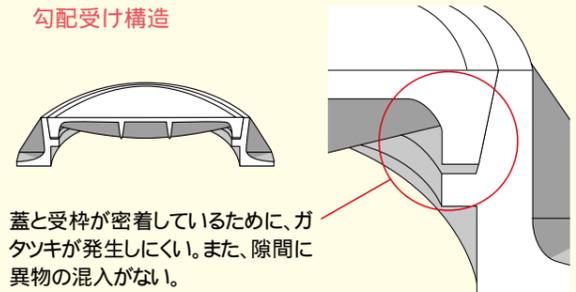


マンホールの蓋における技術革新は、材質だけでなく形状面でも行われました。初期のマンホールの蓋は、受枠の上に蓋を乗せるだけの「平受け構造」と呼ばれるタイプ。蓋と受枠の間に隙間があったため、車両の通行や、砂などの異物が隙間に入り込むことでガタツキが発生していました。普通鋳鉄製のマンホールの蓋は、強度不足を補うために中央部を肉厚に作っていたため、その重量は80キログラムにも達しており、その重みでガタツキをある程度防いでいました。しかし、軽量化されたダクタイル鋳鉄製のマンホールの蓋が登場すると、さらにガタツキやすくなり、車両が通過した際の騒音が苦情として寄せ

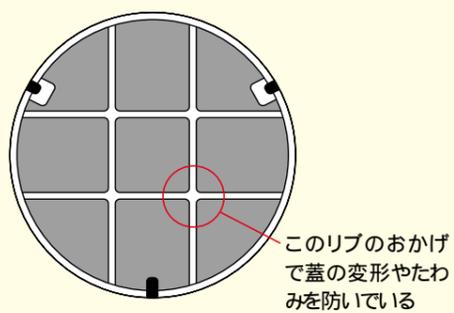
平受け構造



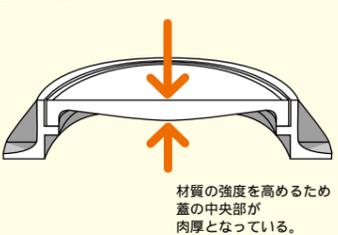
勾配受け構造



リブ構造



普通鋳鉄蓋の断面



られるという事態もありました。

そこで、このガタツキを押さえる構造として「勾配受け構造」が開発されました。これは蓋と受枠の接触する面に勾配を付けることで、蓋と受枠を食い込ませるというものです。しっかりと固定させることで騒音の発生も抑えることに成功しました。「勾配受け構造」もダクタイル鋳鉄同様に、現在も多くのマンホールに採用されている技術です。

進化するマンホール(スリップ・浮上防止)

平成10年(1998年)9月、高知県で集中豪雨によりマンホール蓋が外れ、冠水で路面が見えない道路を歩いていた歩行者が転落して亡くなるという事故が発生しました。普通鋳鉄製のものよりも軽量化されたダクタイル鋳鉄製のマンホールの蓋でも、その重量は40キログラムもあり、日常で人が容易に開閉できる代物ではありません。しかし、絶大な自然の力を目の当たりにした旧建設省(現在の国土交通省)は、「下水道マンホール緊急安全対策(案)」をまとめ、「下水道マンホール安全対策の手引き(案)」が作られました。

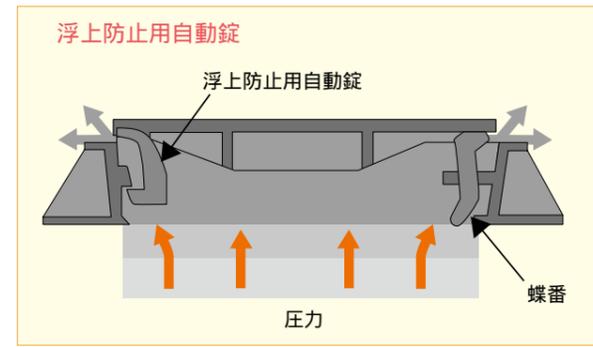
マンホールの蓋を飛散させないために、どのような安全対策が行われているのかについて大賀氏に伺うと、「マンホールにはロックと蝶番をつけることで、簡単に飛散しないようにしています」とのこと。さらに、マンホール内の圧力に対しては、蓋そのものに穴を開けておいたり、わざと蓋が少しだけ開いて圧力を抜くといった工夫も施されているそうです。

また、マンホールは道路上に設置されているために、スリップ防止についても配慮なくてはなりません。雨などにより滑りやすくなったマンホールの蓋は、走行する車両にとって危険な存在。さらに子どもや高齢者が転倒して大怪我をする原因になる可能性もあります。

鋳鉄製の蓋を滑りにくくするための工夫は、表面の凹凸。マンホールの蓋にはさまざまな模様が施されていま



真横から見たマンホール蓋。デザインをつくっている凹凸が分かります。



すが、これらは単なるデザインではなく、凹凸をつけることでグリップ力を生み出しているのです。しかし、車両の通行などによる摩擦は、蓋の表面を削っていきます。磨耗したマンホールの蓋は、雨の日でなくとも滑りやすくなってしまいうため、定期的に点検を行い、磨耗が激しい蓋は入れ替えをする必要があるのです。

定期点検は蓋の磨耗のほかに、ガタツキ・腐食・受枠の周辺状況なども点検します。「マンホールの維持管理をしっかりと行うことは本当に大切なこと」と大賀氏は話します。

マンホールの今後については、ICチップを埋め込むことで、外から配管図を読み取れるシステムなどが考えられています。

デザインマンホール

大阪市であれば「大阪城」、吹田市は「太陽の塔」など、地域によってさまざまなマンホールの蓋を見ることができます。このデザインマンホールは町おこしやPRとして作られたもので、大阪府下の全市町村で導入されています。



これまで大阪市内で使用されてきたマンホール蓋。上は昭和38年、右上は昭和47年、右下は昭和53年に撮影したもの。

「デザインマンホールのファンは結構います」と大賀氏が話すように、これまでもマンホール蓋の版画を集めている人や、限定マンホールの設置場所に関する問合せがあったのだとか。さらに、「海外の人ですが、マンホール蓋を国に持って帰りたい」という無理な要望もあったそうです。

大阪市内でデザインマンホールが導入されたのは平成6年から。一般公募でデザインを募集し、現在の大阪城のもの選ばれました。この大阪城が描かれたデザインマンホールが大阪市内では一般的なデザインとなっていますが、実はこれ以外にも市制100周年記念やエキスポ記念のデザインも限定的ですが使われています。

今後、大阪市内でオリンピックやワールドカップといったビッグイベントがあれば、再び限定マンホールが登場する可能性もあります。マンホールは今や、地下と地上を結ぶだけではなく、まちづくりのひとつとしても活用されているのです。

大阪市のデザインマンホール

大阪市制100周年を記念して造られたマンホール蓋

国際花と緑の博覧会を記念し、会場に設置されたマンホール蓋

これがなにわのマンホールマンホールコースター 発売中!

大阪市内で実際に使用されているデザインマンホールが1/6スケールのコースターに! マンホールがテーブルに置かれる、ちょっと不思議な「ティータイム」はいかが? 588円(税込) 新大阪駅や通天閣、関西国際空港などで販売しています

平成6年に下水道事業100周年記念として市民にデザインを公募しました

大阪府下のデザインマンホール 一挙紹介!!

大阪府下の各自治体で使用されているデザインマンホールを紹介します。
君はいくつ見たことがあるかな？

<p>堺市</p>  <p>市民に親しまれている市の鳥『モズ』と市の花『ハナショウブ』、市の花木である『ツツジ』をデザインしています。</p>	<p>岸和田市</p>  <p>マンホール中心部に緑化推進の一環として選定されている市の花『ばら』をイメージし、その周りに市のシンボル『岸和田城』を配置しています。</p>	<p>豊中市</p>  <p>市内の公園等、景観上必要な箇所でもチカネワニをデザイン化したマンホール蓋を使用しています。</p>	<p>池田市</p>  <p>池田市の市章である井桁を中心に、市の花(さつきつつじ)、市の木(くすのき)、市の鳥(やまばと)をデザイン化したものです。</p>	<p>吹田市</p>  <p>昭和45年に開催された日本万国博覧会のシンボルである太陽の塔を中心に、市民の木であるクスノキと市民の花であるサツキをデザイン化しました。</p>
<p>泉大津市</p>  <p>写真(左)は、泉大津市では羊は全国の95%以上のシェアを誇る毛布の町のシンボルであり、羊のもつ暖かさや愛らしさを表現しています。写真(右)は、毛布の町である繊維産業都市を表現しています。</p>	<p>高槻市</p>  <p>市の花「卯の花」と市の木「柳」を配し、下水道整備により清らかな水辺の復活を願い、北摂の代表的な景勝地である摂津峡の春をデザイン化したものです。</p>	<p>貝塚市</p>  <p>市の花「コスモス」をシンボルとした「コスモス・アイデンティティ(CI)運動」の一環としてデザインされました。</p>	<p>守口市</p>  <p>昭和60年10月に完成した京阪守口市駅前再開発のシンボルである『カリオン』を中心に、まわりに市の花である『さつき』を配置し、図案化したものです。</p>	<p>泉南市</p>  <p>中央に市章をデザインし、市の花である梅と4つの市章を調和させ、梅の枝 東西南北への躍進を表わし、臨空文化都市として国際的にはばたき姿を象徴しています。</p>
<p>枚方市</p>  <p>枚方市のマンホール蓋は、淀川を行き交う三十石船に食べ物を売る「くらわんか舟」と市の花である菊をデザインしています。</p>	<p>茨木市</p>  <p>中心に市章を配し、その外縁に市花の「バラ」と市の木「かし」を図案化して交互に配置し、豊かな自然と文化の香り高い茨木市を象徴するデザインとしたものです。</p>	<p>八尾市</p>  <p>八尾市の「八」にちなんで八角形を中心に、市の花「菊」と河内木綿の実、姉さんかぶりの女性が糸車を紡ぐ姿を配し、河内木綿の伝承の地、八尾市を象徴したものとされています。</p>	<p>泉佐野市</p>  <p>市章を中心に、市の木「いちよう」を配し、発展を続ける市の産業と市民の生活の将来性を表現。実りある家庭生活を家族のような大小十六枚のいちようの葉とぎんなんで表わしています。</p>	<p>島本町</p>  <p>中央に流れる川は、一級河川の水無瀬川で、上流のすんだ水辺でホタルが飛びかう情景をデザイン。左上は、町の木「くすのき」、右横には、町の花「やまぶき」があらわされています。</p>
<p>寝屋川市</p>  <p>寝屋川市の有名な民話「鉢かづき姫」をモチーフに、市の木「さくら」、市の花「ばら」をデザインに入れた、寝屋川市のマスコットキャラクターをあしらったデザインです。</p>	<p>河内長野市</p>  <p>平成2年6月に公募し、この作品を採用しました。常緑樹でたくましく発展する「くすのき」を中央に、市の花「きく」を外郭にあらわし、河内長野市を象徴しています。</p>	<p>松原市</p>  <p>松とバラは市の木と花であり、松は寿や節操を象徴とする樹木中の首木とされています。西洋の花であるバラとのイメージで松原市を世界に発展させてゆくことを目標に選びました。</p>	<p>和泉市</p>  <p>和泉市で採用しているデザイン蓋について、汚水は、市の花「水仙」を基調に、清楚にして気高く情愛の豊かなイメージを、雨水は、地中から湧き出る泉を背景に魚と美しい水鳥「翡翠」を調和させてデザインしています。</p>	<p>豊能町</p>  <p>「タンポポ」は町の花で、踏みだかれても根強い強さと可憐さをあらわしています。</p>
<p>田尻町</p>  <p>田尻町は泉州玉葱の発祥の地であるといわれており、これをモチーフにデザインしました。なお、ニッケームの玉水ちゃん是一般公募により採用しました。</p>	<p>太子町</p>  <p>名の由来でもある聖徳太子が制定された、「十七条憲法」の1ヶ条を記し、地域で培われてきた人々のつながりと人情味を表現。二上山とともに、聖徳太子御廟の守護寺である叡福寺の多宝塔と町花であるさつきをあしらっています。</p>	<p>河南町</p>  <p>自然のなかで力強く、美しく、親しみのある町のはな「ゆり」と木「さくら」をデザインした。</p>	<p>千早赤坂村</p>  <p>村の木「くすのき」と村の花「やまゆり」、金剛山をデザインしています。平成6年に村在住、在勤者によりアンケート調査を行いこのデザインに決定しました。</p>	

<p>大東市</p>  <p>大東市では、野崎に位置する野崎観音への野崎参りの道すがら舟と陸とでかけあう情景が描かれている野崎参りの図がマンホールに描かれています。</p>	<p>箕面市</p>  <p>清流のシンボルである「箕面大滝」と市の木である「いろはもみじ」をデザインして、箕面市の緑豊かなイメージを表しています。</p>	<p>柏原市</p>  <p>柏原市の特産品であるぶどうをデザインしたマンホールは長瀬川・原川沿いの歩道に設置されています。</p>	<p>羽曳野市</p>  <p>古市古墳群、日本最古の官道といわれる竹内街道をはじめとする歴史的資源が数多く残っている羽曳野市の古墳群をイメージしたものです。</p>	<p>摂津市</p>  <p>大空へはばたく野鳥を象徴化した摂津市のき章を中央に、摂津の「セ」という字を組み合わせた模様を周囲に配し、すべり止めも兼ねたデザインとしています。</p>
<p>門真市</p>  <p>大阪緑の100選にも選ばれている「砂子水路のさくら」をデザインしています。 H 22.4 -</p>	<p>高石市</p>  <p>市の花「さつき」をデザインしています。 - H 22.3</p>	<p>藤井寺市</p>  <p>中心に市章を、その周囲に市の木である「梅」を配置し、更にその外側に市内に点在している「古墳(前方後円墳)」を配置したデザインである。</p>	<p>東大阪市</p>  <p>花園ラグビー場を有している東大阪市では、ラグビーのもつ「力強さ、連帯性」さらには「すがすがしさ」といったイメージ。「ラグビーのまち東大阪」としてアピールしています。</p>	<p>交野市</p>  <p>このマンホール蓋のデザインは、中ほどに交野の文化を育んだ天野川を配置し、市の木「さくら」、市の花「つつじ」、市の鳥「きじ」をあしらったものです。</p>
<p>四条畷市</p>  <p>市の木「くすのき」と市の花「さつき」をあしらったデザインを使用。</p>	<p>大阪狭山市</p>  <p>背景の青色は「狭山池」、緑色は「みどり、田園等」をイメージしたものです。その中に、市の木「さくら」と市の花「つつじ」をデザインしあわせたものです。</p>	<p>阪南市</p>  <p>このデザインは、中央に市章、まわりに市の木である「松」、市の花の「さつき」、生活を豊かにし自然を潤す「水」を配している。</p>	<p>忠岡町</p>  <p>さつきは、従前より本町の街路に植樹し、通称さつき通りとして親しまれています。住民に親しみやすい花であるとして、忠岡町の花に選定されています。</p>	<p>熊取町</p>  <p>熊取町の花「向日葵」の中から飛び出す町のマスコット・キャラクターである熊の「ジャンプ君」により、熊取町の明日に躍進する姿を表しています。(なお、現在ガス穴なし)</p>

水交

すいじんの
まじわり

渡船

(大阪市)

江戸時代に始まって以来、大阪で暮らす人々の足として活躍してきた渡船。現在でも大正区を中心に8航路の渡船が運航し、年間200万人もの方が利用しています。今回は、最近では遠方からの観光客も訪れる「大阪の渡船」を紹介します。

天保山と此花区桜島3丁目を結ぶ天保山渡船場。観光客の利用が最も多い渡船で、1日平均860人が利用している。



渡船の歴史

古来より多くの河川が流れていた大阪。江戸時代には土佐堀から江戸堀、立売堀のあたりに諸藩の蔵屋敷が建ち並び、「天下の台所」として経済の中心地として栄えました。「浪速の八百八橋」と呼ばれるほど多くの橋が架けられ、架橋が難しい場所では渡船が運航し、水の都・大阪を支え続けてきました。

人々の貴重な交通手段として利用された渡船業は、明治時代まで代々の家業として受け継がれ、利用するには料金がかかりました。また、渡船によって運営形態はさまざまで、設備や営業時間、料金なども各渡船によって異なっていたそうです。

大阪の渡船に変革が訪れたのは明治24年(1891年)。大阪府が「渡船営業規則」を定め、「監督取締り」を行うようになったことにより、各渡船の料金や営業時間は統一されることになりました。さらに明治40年(1907年)には、安全確保の理由もあり安治川、尻無川、淀川筋の29渡船場が市営事業になりました。この当時はまだ船や船具、人員の備えや、財政の目処が立たないことから、昭和7年(1932年)まで市吏員が巡回して請負制度で営業されました。

渡船が無料になったのは大正9年(1920年)で、旧道路法が改正されてから。「渡船は道路の延長であり、橋梁の変形である」との考えから無料化が行われました。以後、現在に至るまで、渡船は通勤・通学・買い物など市民生活に欠かせない市民の「道」として運営が続けられています。

最盛期の渡船場は臨海部を中心に31か所あり、保有船舶数は69隻、年間の利用者は歩行者が約5752万人、自転車などが約1442万台にも上りました。しかし、渡船場は橋梁架設や道路施設の整備、戦災のために多くが廃止。戦後の昭和23年(1948年)には15か所で再開されましたが、自動車社会の到来とともに利用者は減り、昭和53年(1978年)には渡船場は12カ所に。利用客も250万人まで減少しました。その後も減少は続きましたが、平成20年(2008年)には若干の回復を見せています。



夕方の千歳渡船場。奥に港大橋の赤いトラス橋が見え、美しい景観を形成している。



自転車を押す人たちが賑わう甚兵衛渡船場。身近な交通手段であることが伺える。

市民の足として

大阪市福島区で生まれ育った方によると、「渡船は生活の足でした。船とは言いますがそんな感覚はなく、私にとっては道同然。今でも渡船を利用して学校に通った日々を思い出します」と渡船について振り返ります。

橋梁架設や道路施設の整備が進むと、徐々に姿を消していきましたが、橋が架かったにも関わらず千本松渡船場のように運航が続いている場所もあります。

大正区南恩加島1丁目と西成区南津守2丁目を結ぶ千本松渡船場が運航する場所には、昭和48年(1973年)に千本松大橋が完成。渡船は廃止が検討されました。しかし、この橋は大型船が通行できる水面下36メートルに架けられたループ橋で、渡るには急勾配の橋桁を何回もぐるぐると回りながら上って渡らなければなりません。自動車ならともかく、13キロメートルもある橋を歩くには、特



昭和39年に運航されていた西九条渡船

に子ども連れの方や車椅子、高齢者の方にとっては困難で、多くの市民が2分弱で対岸に行くことができる渡船の存続を望みました。廃止撤回を訴える声は署名活動に発展し、これを受け存続が決定しました。この千本松渡船場は、現在でも1日平均1110人の貴重な足として運航されています。

運航時間は各渡船場によってさまざま、最も長い時間運航している千本松渡船場では、平日6時~21時30分まで運航されています。時刻表を見ると、どの渡船もラッシュ時には10~15分おきに運航されていますが、その中で甚兵衛渡船場の7時40分代の時刻表には「随」の文字が書かれています。これは利用者が多いこの時間帯のみ、2隻の船で利用者の数に合わせた随時運航を行うというもの。利用者の便宜に合わせた運営が行われているのです。

現在も運航中の渡船場マップ



水都・大阪の誇り

ここ数年、渡船は知る人ぞ知る「大阪の新名所」になっています。繁華街や観光施設にはない「飾らない大阪」を見ることができると遠方から渡船目当てに訪れる人や、ミニクルーズとして渡船独特の情緒を楽しみにくる方もいるそうです。特に天保山渡船場では、川幅も広く夕焼けも美しいことから、人気スポットとなっています。

8年前まで渡船の操縦をしていた大阪市建設局渡船事務所の藤原さんは「はじめて渡船に乗られた方は、皆さん無料であることに驚かれるようです」と話します。同じく渡船事務所の七五三所長によると、100円玉を握り締めて、「料金はどこで払うのですか」と聞くお客さんもあるのだとか。渡船は道路法で道路として定義されているため、利用に料金が発生しないことになっていますが、この時代に無料でこのような渡船が利用できることが不思議に思う人も多いようです。

七五三所長は「大阪市以外でも渡船が残っている場所はありません。でも、これほどの規模で運営されているのは大阪市だけです」と話し、渡船は大阪市の誇りでもあると言います。一方、藤原さんは、父親も渡船の船長をしていたそうで、子どもの頃から渡船を身近なものとして感じてこられたそうです。「私がそうであったように、渡船がもっと多くの方に身近な存在になってほしいですね」と藤原さん。水都・大阪に伝わるまちの魅力。それは「人々の営み」として受け継がれてきた渡船情緒にあるのかもしれない。

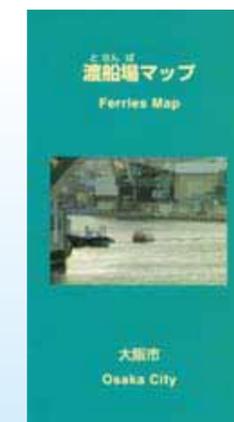
連絡先

連絡先

大阪市建設局渡船事務所
電話06-6531-0548

渡船場マップもどうぞ

現在も利用できる渡船の情報を掲載。ウォーキングを兼ねて、渡船めぐりはいかがですか?大阪市役所や大正区役所などで設置しています。大阪市の建設局のホームページでもご覧になることができます。

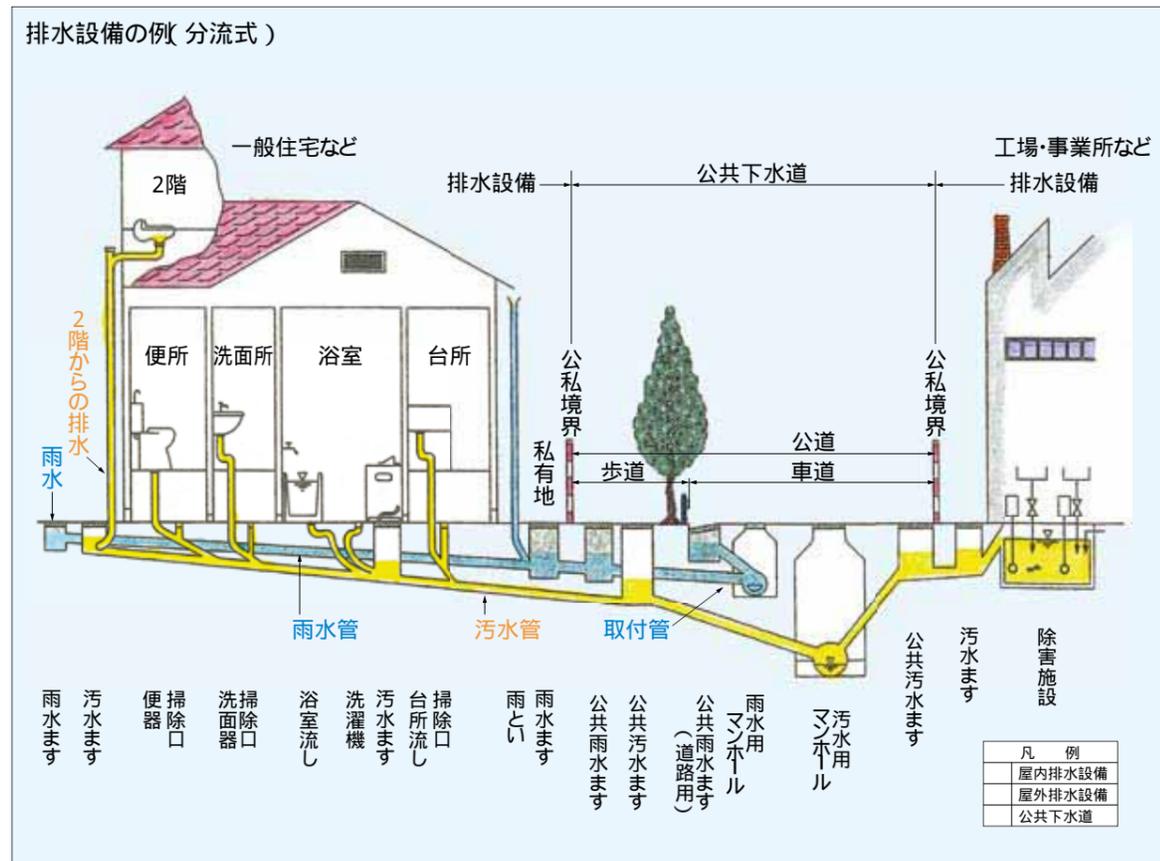


下水道排水設備工事 責任技術者試験および更新講習等の実施

(財)大阪市下水道技術協会は、日本下水道協会大阪府支部から下水道排水設備工事責任技術者試験および更新講習等に関する業務を受託し、毎年実施しています。

「下水道法第10条」により、公共下水道の供用が開始された場合には、当該公共下水道の排水区域内の下水を公共下水道に流入させるために必要な排水設備(排水管・排水きよ等)を設置しなければならないとされています。また、排水設備の工事等を行う場合には、工事を監理する専属の責任技術者を置いている指定工事店でなければなりません(大阪府下、各市町村の条例・規則等)。

下水道排水設備工事責任技術者試験に合格することにより、責任技術者の登録資格を有することができます。登録申請は大阪府下の市町村等で受け付けています。



責任技術者

責任技術者として新規に登録しようとする者は、当該市町村が定める期間内に、申請書に試験合格証(写し)と必要書類を添付して申請しなければならない。

責任技術者登録を更新しようとする者は、当該市町村が定める期間内に、申請書に更新講習修了証(写し)と必要書類を添付して申請しなければならない。

指定工事店

指定工事店の指定を受けようとする者は、当該市町村が定める所定の申請書に必要書類を添え申請しなければならない。

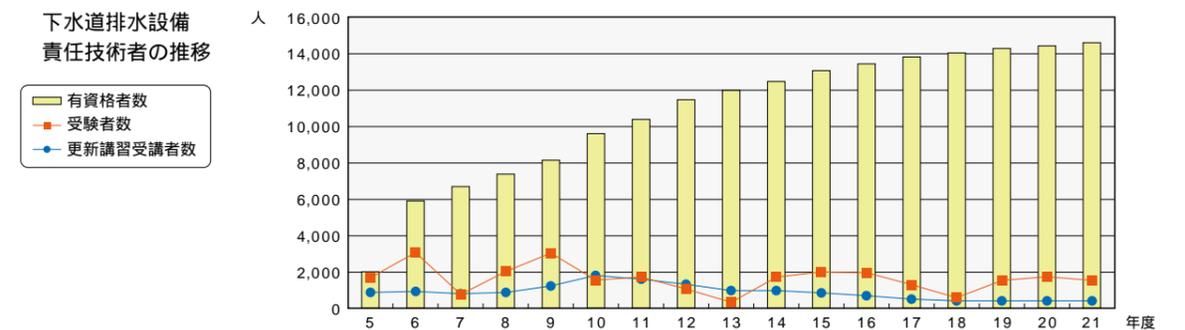
排水設備工事責任技術者試験および更新講習の実施概要

申請書の受付... 5月下旬～約2週間

(府下市町村にて。(土曜日除く))

試験..... 8月下旬頃(受験講習会は8月中旬頃)

更新講習..... 9月中旬頃



下水道排水設備工事責任技術者試験(平成21年8月29日実施)



下水道排水設備責任技術者更新講習(平成21年9月13日・19日実施)

(財)大阪市下水道技術協会事務所 移転のご案内

この度、当協会(工務課分室含む)事務室を下記のとおり移転しましたので、お知らせいたします。今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

移転先

〒541-0055
 大阪市中央区船場中央2丁目2番5号-206
 船場センタービル5号館 2階
 総務部 《TEL》06-4963-2056 《FAX》06-4963-2087
 工務部 《TEL》06-4963-2057 《FAX》06-4963-2095

業務開始日

平成22年3月1日(月)



本書を作成するにあたって、参考にさせていただいた資料一覧

- 泉佐野市観光ガイド...泉佐野市観光協会
- 犬鳴山温泉観光マップ...犬鳴山観光振興会
- 大阪市建設局WEBサイト(<http://www.city.osaka.lg.jp/kensetsu/>)
- 日本グラウンドマンホール工業会WEBサイト(<http://www.jgma.gr.jp/>)

- マンホールの博物誌...株式会社G&U技術研究センター
- 水の文化...ミシカン水の文化センター
- 渡船場マップ...大阪市建設局渡船事務所